

平成 22 年 3 月 9 日

各 位

会社名	国際石油開発帝石株式会社
代表者名	代表取締役社長 黒田 直樹
コード番号	1605 東証第 1 部
問い合わせ先	広報・IR エキットジェネラルマネージャー 板野 和彦
電話番号	03-5572-0233

アゼルバイジャン共和国 カスピ海 ACG 鉱区
チラグオイルプロジェクトの開発移行決定について

国際石油開発帝石株式会社は、子会社インペックス南西カスピ海石油株式会社を通じて、アゼルバイジャン共和国領カスピ海海域 ACG 鉱区において開発・生産作業を実施しておりますが、今般、チラグ油田およびグナシリ油田深海部の浅層を含む大規模な追加開発となるチラグオイルプロジェクト開発計画が、アゼルバイジャン政府により承認されましたので、お知らせいたします。この追加開発による生産開始は 2013 年と見込まれており、本承認を受けて、これに向けて開発作業に着手いたします。

チラグオイルプロジェクトでは、新たな生産プラットフォームを建設し、このプラットフォームで生産された原油は、同鉱区内で既に稼働しているプラットフォーム 5 基から生産されている原油とともに、アゼルバイジャンのバクー近郊のサンガチャルターミナルに送油され、ここを起点とし、グルジアのトビリシを経由し、トルコのジェイハン（地中海沿岸）に至る BTC（Baku-Tbilisi-Ceyhan）パイプライン等により輸出される予定です。

この追加開発には総額約 60 億ドルの費用が見込まれ、この追加開発により、ACG 鉱区全体で現状日量約 85 万バレルの原油生産量が更に引き上げられ、可採埋蔵量が約 3.6 億バレル増加することが期待されています。

当社は、カスピ海地域において、上記のアゼルバイジャン ACG 鉱区のほか、カザフスタンの北カスピ海沖合鉱区（カシャガン油田ほか）の開発事業に参加しています。

なお、本件による平成 22 年 3 月期含め業績への影響は軽微であります。

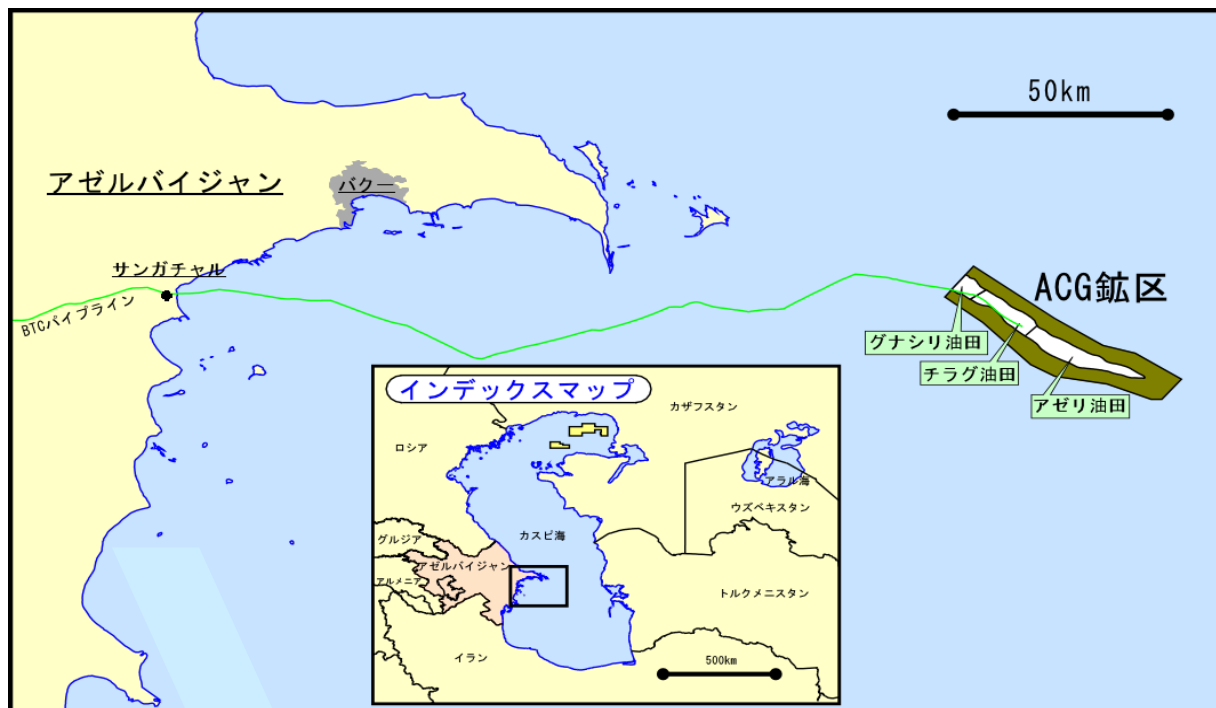
【補足説明】

ACG 鉱区の概要

ACG 鉱区は、アゼルバイジャン共和国の首都バクーから東方約 100km のカスピ海域に位置し、アゼリ油田、チラグ油田およびグナシリ油田の 3 油田により構成されています。1994 年に生産分与契約が締結され、1997 年から原油の生産が開始されています。インペックス南西カスピ海石油(株)は、2003 年 4 月に本鉱区の参加権益 10%を取得し、オペレーターの BP 社 34.1%のほか、Chevron 社 10.3%、アゼルバイジャン国営石油会社(SOCAR) 10%、Statoil 社 8.6%、ExxonMobil 社 8%、TPAO 社 6.8%、Devon 社 5.6%、伊藤忠商事(株)3.9%および Hess 社 2.7%が、それぞれ権益を保有しております。

以上

ACG鉦区位置図



チラグオイルプロジェクト開発概念図

